

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立本巣松陽高等学校

学校番号 14

I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>「知・徳・体」の調和のとれた、人間性豊かで、たくましく生きることのできる生徒の育成に取り組む。 (1) 学習活動を重視し、自己実現に向けた意欲的な態度の育成 (2) 規範意識の確立と豊かな心の育成 (3) 自主・自立の精神の育成</p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇教 務：「教育課程・学習指導」「教育目標・学校評価」</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>(保護者等を対象とするアンケートの結果分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本校の教育目標への理解」への評価（29年92.5%→30年94.3%）と「校風への共感」への評価（29年85.1%→97.1%）が高くなった。本校の魅力を掘り上げ、学校案内やHP、学校説明会を充実させたり、本巣市との連携などの新しい取組に挑戦したりするなど、認知度の向上を図った結果である。今後、もう一度全職員で目標を共有することで、教育改革や百周年行事を推し進めるためのさらなる方策を計画し、実行していきたい。 ・「選択授業、少人数授業、個に応じた丁寧な指導」への評価（29年なし→30年97.1%）への評価は、初回から大変高いものであった。本年度からの2年次の選択科目の充実、全体の約64%で展開されている少人数授業の効果、選抜クラスの指導の強化の結果である。この結果に甘んずることなく、積極的な教育課程の見直しと編成に努めていきたい。 ・「表現トレーニング、ビブリオバトル、論文執筆等による思考力・判断力・表現力の育成」への評価（29年なし→30年77.1%）は、上記の単位制に関わる評価と比べると、決して高いとは言えない。今後は、新入試制度が求める「新しい学力」の育成への保護者の理解を得て、多様な学習支援を推進していきたい。 <p>(生徒を対象とするアンケート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教員の専門性や授業のわかりやすさ」への評価（29年79.8%→30年91.4%）が、大変高くなった。本校における確かな学力の育成に向けて、全職員が日々試行錯誤しながら、創意工夫をこらした授業を展開している結果である。今後もさらに、授業について話が飛び交うような職員の気風を築いていきたい。 ・「ボランティアの機会の提供」への評価（29年58.6%→30年80.0%）が、大変高くなった。本巣市との連携協定を結び、数楽校や幼稚園のボランティアへの参加を、積極的に呼びかけた結果だと考える。ボランティアは、「学びみらいPASS」で測定された親和力の高い本校の生徒の良さを、最大に活かせる機会であるため、今後も様々なことに挑戦させたい。 ・「表現トレーニング、ビブリオバトル、論文執筆等による思考力・判断力・表現力の育成」への評価（29年なし→30年74.3%）は、保護者の結果と同様、決して高いとは言えない。もう一度、これらの取組の目標とゴールを明確にし、充実した内容にしていきたい。
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>◇教 務：生徒の実態を踏まえた指導計画のもとに、創意工夫ある授業実践を通じ、大学や社会で、力強く学び、成長するための主体的な学習態度の育成を図る。</p>

<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次期学習指導要領及び高大接続改革に向けての準備 →管理職・3部長・3学年主任による定例会 ・新しい学校設定科目、選択科目と選択群の開発 →教育課程研究委員会での研究 ・授業改善（公開授業、授業研究会）の実施 →各教科での研究の継続 ・「授業アンケート」の結果分析と課題の把握 →教務で分析、全職員で共有。 ・「学びみらいPASS」の結果分析と課題の把握 →業者による解説会、全職員で共有、教務で活用。 	
<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 生徒一人一人の学習習慣や生活のリズムを把握し、根気よく家庭学習に取り組ませることで、時間をマネジメントする力を定着させる。</p> <p>(2) 学習のゴールを教師と生徒が共有した授業を展開し、教科学力の伸長を図ることで、自信が生まれる主体的な学習態度を育成する。</p> <p>(3) コミュニケーション能力、課題解決力、論理的思考力、創造力等を育成するための教材開発や指導方法を工夫し、ジェネリックスキル（リテラシーとコンピテンシー）を身に付けさせることで、大学や社会で活躍する準備を進める。</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 「学習生活パターン」調査の「計画的に学習している」に対する生徒の肯定的な回答が、80%以上になる。</p> <p>(2) 「学びみらいPASS」の「教科学力」に係る生徒一人一人のスコアが、学年が上がるごとに100伸びる。</p> <p>(3) 「授業アンケート」の「本校の授業で習ったことは、将来役に立つと思う」に対する生徒の肯定的な評価が、90%以上になる。</p>	
<p>8 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り項目を入れた「学習生活パターン」調査を毎月実施し、常に家庭学習を意識させた。 ・学年集会を利用して、早期の段階から「何よりも授業」という意識を持たせ、定期的に「教務通信」を発行し、生徒のモチベーションの支援に努めた。 ・「学びみらいPASS」と前期授業アンケートの結果を踏まえ、協働的な学びや経験値をあげる授業の実践を目指した。 	<p>9 評価視点</p> <p>①生徒は定期的に家庭学習をしているか。</p> <p>②生徒は授業に真摯に取り組んでいるか。</p> <p>③職員が、生徒の主体的な学習態度を育成するという意識のもと、計画的に日々の授業実践に努めているか。</p>	<p>10 評価</p> <p>A B <input checked="" type="checkbox"/> C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>11 成果・課題</p> <p>○「授業アンケート」の結果から、昨年度よりも改善された点。</p> <p>①専門的な知識を説明する技術への評価。</p> <p>②効果的な「まとめ」や「振り返り」を取り入れた授業の増加。</p> <p>▲「学びみらいPASS」「授業アンケート」の結果から、以下の課題が浮かび上がった。</p> <p>①学ぶことに興味や関心を持ち、積極的に授業に参加できているが、自発的に家庭学習ができない生徒が多い。特に2年次生の学びの意識への減退が激しい。</p> <p>②自分と異なる考えや意見でも、興味深く相手の話を聞くことができるが、自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることを、半数の生徒が苦手としている。</p> <p>③大半の生徒が、知識の統合、情報収集、課題解決を苦手としている。</p>		<p>12 総合評価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>

12 来年度に向けての改善方策案

- ①来年度は本年度の「学習生活パターン」調査のデータを基礎データにすることができるため、その調査の効果を夏季休業までに検証する。そうすることで、2年次での、学びの意欲減退を最小限にするため方策に着手する。
- ②学習指導要領の改訂を見据えた指導方法の改善・充実
多くの職員が校外の研修や研究会に参加し、その成果を共有する場を設けることで、学校全体で授業改善の質的向上を図る。そうすることで、思考力・判断力・表現力を育成する学習を活発化し、さらには教科横断的な取組や課題解決型の学習の研究につなげる。
- ③探究的な学習の時間充実と指導体制の確立
来年度は「学びみらいPASS」の結果の経年変化を見ることができる。そこで本校の生徒のどのような力を伸ばすことができたかを、6月までに検証する。そうすることで、朝の10分間の探究活動を軌道にのせ、現在の総合的な学習の時間（ビブリオバトルや群鶴論文などの取組）に探究的な要素を盛り込むことを追究し、さらなる生徒の活躍の場を設定することにつなげる。

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月28日

【意見・要望・評価等】

- ・これからの教育を意識させるジェネリックスキル、リテラシー、コンピテンシーなどといった用語の意味を理解し、学校のアンケート結果からうかがえる生徒の実態を踏まえながら、教育改革を進めようとしていることが伝わってきた。
- ・生徒たちが自分たちの力を発揮できるよう、授業を通して、学校生活を通して、自分たちで考えさせる工夫が大切である。さらに模索してほしい。